

平成 30 年 7 月

# 魚津市定例記者会見



日時：平成 30 年 6 月 29 日（金） 午後 1 時 30 分～

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、朝日新聞社、読売新聞社  
KNB、NICE TV、ラジオミュー

市当局出席者：市長、副市長、教育長、企画総務部長、民生部長、産業建設部長  
企画政策課長

## 1. 市長からの発表事項

### (1) 魚津の米騒動 100 年関連事業のスケジュールについて

- ・米騒動普及啓発のための関連事業について、7 月以降開催のイベントをお知らせする。

（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

### (2) ありそドームにキッズスペースがトライアルオープンします

- ・市では、室内のこどもの遊び場を設置することを検討している。ニーズの調査や運営上の課題等を明確にするために、6 月 30 日から、ありそドームにキッズスペースをトライアルオープンする。

（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

### (3) ふるさと教育を推進するための基金寄附を募集します

- ・小中学校の児童・生徒のふるさと教育の推進のため、新たに「ふるさと教育推進基金」を創設し、広く寄附を募ることとした。募集にあたっては、市民、市内事業所等に幅広く周知するほか、市HP等を利用し、市出身の県外在住者にもPRしていく予定としている。ふるさと納税の活用など、様々なことを考えて行っていく必要があると考えている。

（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

## 2. 教育委員会及び各部長からの説明事項

〈教育長〉

- ・第 67 回魚津市民体育大会
- ・社会に学ぶ 14 歳の挑戦（市内中学 2 年生 123 事業所、367 名）
- ・魚津市中学校ネットルール作りワークショップ（生徒 45 名、教職員 10 人参加）

- ・児童と生産者等との交流会食（平成30年度第1弾 上中島小）
- ・ステアード・ストレイト交通安全教室の開催について（西部中学校）
- ・1学期終業式
- ・学校給食センター体験・見学会

〈企画総務部長〉

- ・大町キラキラ七夕まつり
- ・婚活イベント「博物館 Night Party」
- ・※SODOイベント「とやまで働く女性のトークイベント」  
（40人程集まり、フリーのトークイベントを行う）

〈民生部長〉

- ・障がい者のための歩行訓練と流しそうめん
- ・園の畑作りに対する感謝状贈呈式（道下保育園 カレーパーティ時）
- ・別又自然観察池での自然観察会（水族館・埋没林博物館の学芸員も同行）

〈産業建設部長〉

- ・ミラージュプールがオープン  
（今年は7月14日から営業開始。魚津市民には、割引券を市広報に折り込んだ）
- ・魚津水循環 魚津縦断サイクリング開催・参加者募集
- ・せり込み長祿街流しのオープン参加枠への参加者を募集（初実施）  
（事前申込者は、蝶六保存会の指導を受けることができる）

3. 質疑応答の内容

「ふるさと教育を推進するための基金寄附の募集について」

《記者からの質問》

プレスリリースに「基金寄附を募集します」とあるが、いつから募集ということか。

《回答》（市長）

基金設置条例については6月議会で議決され、既に受け付けている。今後はふるさと教育で、どのような取組を行っていくかを、市HPやマスコミの皆さんを通してしっかり伝えていく必要がある、

《記者からの質問》

具体的な取組案はいつごろまでに示される予定であるか

《回答》（市長）

平成31年度までは試行期間である。平成30年度にこんなことをやっているということはお示しすることはできる。そのなかで、学ぶ場所や、企業との関係、支援の

関係などがあるので、いろんな意見を聴きながら充実を図っていきたいと思っている。平成 31 年度にどうしていくかについてはしかるべき時期にはアナウンスしていきたいと思っている。

《記者からの質問》

基金の創設日はいつか。

《回答》（企画総務部長）

議会最終日の議決日（6月22日）に公布し、公布の日から施行している。

《回答》（市長）

本来は PR 方法などトータル的にやり方を組み立ててから案内すべきかもしれないが、まずはこれをきっかけに始めたいということで案内させていただいた。今後、色々な周知を含めて紹介していきたいと思っている。

「魚津の米騒動 100 年関連事業について」

《記者からの質問》

米騒動関連の行事が7月からいろいろ続いていくが、行事を通して、例えば市民に米騒動の知識・理解を深めてもらいたいとか、意義を改めて再評価したい等、どのような年にされたいか、思いをきかせてほしい。

《回答》（市長）

米騒動が女性一揆であるとか少し暴力的な取り扱いを受けることが多いが、決してそういったものではないという真の姿をしっかりと伝えながら、「魚津」という地を全国に知ってもらう足がかりにしたいという思いはある。同時に、市民の方もそういったことをしっかりと理解してもらい、ふるさと魚津への自信と誇りというものを再認識するきっかけになればと思っている。